



第16回桜雲祭 虹色の輪

輝け!桜雲臺精神

花北新聞 五橋 発行所 岩手県立花巻北高等学校 新聞委員会 花巻市本館54番地 電話 0198-23-4134

絆が深まった桜雲祭

八月の二十九日、三十日に、第四十六回桜雲祭が開かれた。桜雲祭は、花巻北高校の大きな行事の一つであり、今までの花巻生の頑張りを、家族や地域の方々から披露する場である。また、普段はなかなか交流することのできない地域の方々との交流できるよい機会でもある。

今回のテーマは「虹色の輪」。この桜雲祭を通して、部活動・クラス・学校・地域全体で、花巻生らしい「虹色の輪」をつくりあげられたのではないだろうか。文化祭の主役である文化部の作品は今年も目を引くもの、感動するものばかりだった。県大会で金賞を受賞した吹奏楽部による演奏、合唱部による心を奪われる透き通った歌声、文芸部の多才豊かな多彩な文集、美術部の作品展示とプラ版のキーホルダーづくり、写真部の写真展示、ギター部の軽快な音楽など、魅力あふれる作品や発表ばかりだった。また、茶道部によるお客様への心をこめたお手前や、英語部による英語でコミュニケーションを取って遊べるゲーム、科学部のピタゴラスイッチなど来客だけでなく本校の生徒の視線もくぎづけにした。

また、どのクラスも来た人に楽しんでもらう工夫を凝らしていた。一年生による食堂やクラス展示、二年生によるお化け屋敷や脱出ゲーム、緑日など、子どもから高齢者まで、幅広い年齢の方が楽しむことのできる出し物だった。三年生による模擬店は、こだわりのメニューを豊富にそろえ、たこやき・からあげなどの定番のみならず、流行のスムージーやフレンチトーストなどもあり、どのクラスに行こうか選択するのが難しいほどだった。そのなかでも「豚汁」が、雨が降り冷えた体を温めると評判になった。

そして花巻生の新たな一面がみられる、有志によるステージ発表。今年は個性的な発表が多く、見る人を笑顔にさせ、大いに盛り上がりを見せた。それから毎年恒例、花巻の伝統ある応援団による発表。現役の応援団と、引退した応援団の音が校内外に響き渡り、来客に花巻の伝統・文化を伝えていた。

さらに、食堂やスタンプラリーなどでも、訪れた人と生徒が交流する場面が多々見られた。準備から当日まで、クラスの仲間や部活動の仲間と、全力で一つの作品を完成させ充実した日々を過ごすことができた。そして、来てくださった地域の方々や家族にその姿を披露できたのではないだろうか。

後輩には、今まで積み上げてきた花巻の文化・伝統を、桜雲祭精神のもとより良いものにしてもらいたい。花巻生は、校長先生のおっしゃるよう将来、花巻を、そして岩手県を引っ張っていく人材になるだろう。そのために、「文武一道」を合い言葉に、桜雲祭で学んだことをこれからの生活に活かし、「花巻生」である誇りを持って精進してほしい。



文化部の記録

- 【美術部】 (県大会入賞以上) 第38回岩手県高等学校総合文化祭 美術工芸展 第53回県立高校美術展 (絵画部門) 入選 浅沼春香(3年) 入選 照井晴香(3年) 入選 小田嶋菜花(2年) 入選 高橋遥香(2年) 入選 高橋春奈(2年) 入選 鎌田真帆(2年) 入選 鎌田麻里(2年) 【デザイン部門】 入選 佐藤瀬奈(2年) 【合唱部】 第25回岩手県小アンサンブルコンテスト 銀賞 第67回全日本合唱コンクール岩手県大会 銅賞 第82回NHK全国学校音楽コンクール 岩手県コンクール 銅賞 【吹奏楽部】 全日本吹奏楽コンクール 第53回 岩手県大会 金賞 ※平成28年度全国高等学校総合文化祭 広島大会に推薦 全日本吹奏楽コンクール第58回東北大会 銀賞 全日本アンサンブルコンテスト 第36回岩手県大会 クラリネット八重奏 金賞 ※東北大会出場 打楽器四重奏 銀賞 サクソフォーン四重奏 銀賞 金管八重奏 銅賞 【文芸部】 平成27年度岩手県高等学校文芸コンクール 【児童文学部門】 最優秀賞 今井晴美(3年) 【小説部門】 優秀賞 佐藤伶奏(3年) 入選 菱川里奈(2年) 入選 筑後志帆子(1年) 【短歌部門】 入選 菱川里奈(2年) 入選 村松雅俊(1年) 【俳句部門】 優秀賞 今井晴美(3年) 【文芸部誌部門】 優秀賞 佐藤伶奏(3年) 【詩部門】 優秀賞 佐藤伶奏(3年) 【文芸部誌部門】 優秀賞 佐藤伶奏(3年) 【囲碁将棋部】 第37回岩手県高等学校将棋大会 (男子個人A級) ベスト8 小原陸登(2年) 将棋新人大会 【男子団体A級】 第4位 【男子個人A級】 第5位 小原陸登(2年) ※東北大会出場(第28位) 【写真部】 平成27年度岩手県高文連写真専門部 夏季写真コンテスト 入賞 小田嶋通(3年) 第38回岩手県高文連写真専門部 第34回高校写真展 入選 鈴木見悠子(2年) 平成27年度岩手県高文連写真専門部 スライドフォトコンテスト 特賞 入選 伊藤なな子(2年) 佳作 菊池和香(2年) 【英語部】 国際教育研究協議会 第35回英語 弁論大会東北地区代表選考会 優秀賞 亀田梨里加(3年) 【軽音楽部】 第38回岩手県高等学校総合文化祭 並第15回軽音楽発表会 優良賞 「君がいた夏」 (阿部采加、東海人、星紗也香、千葉内花、野崎ひかる(3年)) 【放送部】 第38回岩手県高等学校総合文化祭 放送部門大会 兼 第62回NHK杯 全国高校放送コンテスト岩手県大会 【朗読部門】 優秀賞 佐々木愛美(3年) 第15回東北高等学校アナウンス朗読コンテスト 【朗読部門】 優秀賞 佐々木愛美(3年) 第62回NHK杯全国高校放送コンテスト 入選 佐々木愛美(3年) 【交通安全部】 IBC岩手放送交通安全テレビCM コンテスト 【自転車部】 入選 菊池直喜(1年) 第33回岩手県高等学校放送新人大会 【アナウンス部門】 入選 鈴木里於夕(2年) 【朗読部門】 入選 澤木健人(2年) 入選 高橋美綺(1年) 【ラジオキヤンペーン部門】 優良賞 鈴木里於夕(2年) 【テレビキヤンペーン部門】 優良賞 澤木健人(2年) ※以上東北大会出場 第19回東北高等学校放送コンテスト 【テレビキヤンペーン部門】 優秀賞 澤木健人(2年)

生徒会長から

うか。あなたが「輝く」瞬間はどんなときでしょうか。思い浮かぶ場面は人によって違うと思います。ですが、その違いの中にも必ず共通することがあると私は思います。それは、自分が自身が楽しんでいるということ。楽しさを感じ、心から笑顔になれる瞬間、それが「輝く」瞬間だと私は思うのです。

応援団長から

このパンカラスタイルの中で他人を応援することに喜びを感じ、花巻生を応援する日々が生きがいを感じている。しかし、現実では、パンカラとこの時代というギャップから様々な問題が生じてきている。伝統を変えるつもりはないが、花巻の黒橋魂を後輩へ受け継いでゆくためには、色々な事を見つめ直す必要があると感じている。この時代に生きるパンカラであるからこそ、「パンカラ」とは何か、応援とは何かを考え直し、「花巻応援団」を作り上げていきたい。以上。



写真部



吹奏楽部



文芸部



修学旅行

十一月二十九日、二年生はこれからの非日常生活への期待を胸に修学旅行へと出発した。今回の旅行は四泊五日で京都、奈良、大阪を巡る。

一日目は六時間に渡る新幹線やバスでの移動の後、清水寺を参拝。清水の舞台を写真に収めたり、お土産を選んだりするなど移動の疲れを感じさせない様子であった。二日目は京都での班別自主研修で、事前に調べていたコースを思い思いに回った。F組の名須川芽衣さんは「何度かトラブルがありました。良い思い出になりました」と満足げに語った。

三日目は法隆寺と薬師寺と奈良公園を訪れた。薬師寺の僧侶による愉快な話に笑いが絶えなかった。その話の中でも特に盛り上がりを見せたのは、とある社会科の先生のおかげで覚えた「裳階(もこし)」という単語が出た瞬間だ。生徒たちの反応を見て僧侶は「裳階でこんなに盛り上がる学校は初めてだ」と驚いた様子であった。

四日目は選択研修と大半の生徒の一番の楽しみであったであろうユニバーサルスタジオジャパン(以下USJ)だった。選択研修は嵐山、比叡山、姫路城、神戸の四つのコースにそれぞれ向かった。比叡山へ行ったA組の伊藤真梨乃さんは「知恵の神様に学業成就を祈りました。比叡山の千二百年前から灯っている火が消えないように油を注ぎ続けているのが凄く思いました」と感想を述べた。USJではアトラクションを楽しんだり、買い物したりするなど各々が満喫した。B組の菊池修人さんは「映画で見た世界が広がってとても楽しかったです。絶対USJは恐かったです。ですが、そのスリルがまた最高でした」と笑顔で語ってくれた。

最終日、前日の余韻を残しつつ最後の見学地の大阪城へ向かった。その日は雨であったが、雄大な大阪城を見上げ生徒達は感嘆の声をあげた。大阪城の見学を終え、無事に二年生は新幹線に乗って岩手へと帰ったのであった。

そしてこの旅行を通して一人ひとり自分の見聞を広げることができ、また全体としては団結力を強めることができた。この旅行は本格的に受験勉強に励みだす二年生にとって、大きな糧となることだろう。

先生方から三年生へのメッセージ

3 学年長
村上治昭先生
桜雲精神とは桜雲臺に止まる精神ではないだろう。桜雲臺から飛び立つ精神のことだろう。魔法のでも、葉っぱもないんだから、自分で飛び立つ力のことであろう。諸君、桜雲臺から高く遠く飛翔せよ!

3 年A組担任
金田知佐子先生
日に向かい、人と結び、穂をわたる風の様に、南の空を想い、天翔ける心を持ち、大智を得る。皆さんの名前にこめられた思い、まさにビューティフル・ネー。小さくまとまらず、大志を持って生きていって欲しい。

3 年B組担任
永野伸弥先生
三年生の皆さん、新生活に向けて、期待や不安、色々な感情が入り混じっている所だと思います。新しい生活に飛び込む前に、廻りを見わたしてみよう。支えてくれる仲間、家族がいるはず。臆せず、様々な事に挑戦していきましょう。

3 年C組担任
松川任孝先生
皆さんは人生の節目を迎えようとしています。私もこの年齢になつて

3 年D組担任
田代徹先生
三十年前、私も高校生でした。辛い思い出、苦い思い出、全てを忘れても何かしら頑張っていた気がします。何かに頑張っていた強い気持ちがあれば何でも乗り越えられます。「何事も頑張る前にあきらめるな!!」

3 年E組担任
佐野智子先生
卒業おめでとう。私の贈る言葉はこれです。「元気があれば何でも出来る!」どんなに嫌なことがあっても跳ね返すエネルギー(元氣)さえあれば、事態は好転します。花高の、あなたたちならでき!ぜひ!

3 年F組担任
細野進先生
これからの世界、社会、人生を生きていく中で必要なのは、ビジョンである。どんな世の中であってほしいか、地域や家庭、周囲が魅力的なものであるためには何が必要か、そのために何をしたいか、である。期待する。

小倉和男先生
多くの人に教えられいろいろな本を読みたくさん経験をして、しっかりと自分で考えること

山平和子先生
人生のスタートラインに立った諸君の未来を祝福します。前を向いて、胸を張って、心開いて進んで下さい。天空の虹と足元の雑草、どちらも見つめられる人になつて下さい。そして……唇には歌を、心に太陽を!!

勝又慎介先生
「...そんな事を知らぬや。...」公務員に参加する権利と義務を持つ者よ、最後まで諦めるな。

牛崎芳恵先生
この三年間はどうな三年間でしたか?長い人生のわずかな年、いろいろな人との出会い・経験・感情を持ちながら過ごした三年間だったと思います。時に

木村総司先生
「しぶとさ」が皆さんの長所の一つ。一度、二度失敗したくらいで諦めない、すべて想定の内。そんな思考をもちながらも、決める時には決められる人間になつてほしいなあ、と思う。

細川幸希先生
Always do what you afraid to do 繰り返す間違ってないですか?先人たちは壁を乗り越えるためのたくさんのヒントを残してくれています。困難な道の先に広がる未来をその手で掴み取ってください。

新人戦結果

- 〔陸上競技部〕
第66回岩手県高等学校新人陸上競技大会
五〇〇m競歩 第六位 柴田葉一樹
第五位 佐々木元哉
- 〔ハンドボール部〕
第59回岩手県高等学校ハンドボール新人大会
〔男子〕
※優勝 (二十七年ぶり八回目)
〔優秀選手〕 鳴海 高橋 大石 貴雅
第39回東北高等学校ハンドボール選抜大会
〔男子〕
※初優勝 (全国高校選抜大会出場)
- 〔バスケットボール部〕
第36回岩手県高等学校バスケットボール新人大会
〔男子〕 団体 第二位 大石桃香
〔女子〕 団体 第六位 (瀬川花奈 田村花鈴、佐藤麻乃佳、大石桃香)
第15回東北高等学校新人陸上競技選手権大会
五〇〇m競歩 第二位 都島一樹
四〇〇mH 第三位 大石桃香
- 〔弓道部〕
第34回全国高等学校弓道選抜大会
岩手県予選会
〔男子〕 団体 第三位 前島彩乃
〔女子〕 個人 優勝 多田旺太郎
〔男子〕 個人 優勝 千葉光太郎
〔女子〕 個人 優勝 前島彩乃
第34回東北高等学校弓道選抜大会
〔女子〕 個人 優勝 前島彩乃
第34回全国高等学校弓道選抜大会
〔女子〕 個人 第二位 前島彩乃
- 〔水泳部〕
第53回岩手県高等学校水泳競技新人大会
四〇〇m自由形・二〇〇m自由形 第四位 真壁風子 (東北大会出場)
四〇〇mメドレーリレー 第六位 (鈴木文菜、佐藤華女、真壁風子、牛崎詩穂)
〔バレーボール部〕
第36回岩手県高等学校バレーボール大会兼第46回全国高等学校バレーボール選抜大会岩手県予選会
〔男子〕 ベスト8
〔バドミントン部〕
第55回岩手県高等学校新人バドミントン大会
〔男子〕 団体 ベスト8
第16回岩手県高等学校選抜バドミントン大会
〔男子〕 団体 ベスト4
〔バレーボール部〕
第63回岩手県高等学校新人大会
陸上競技部からは「個々の力とチームの未熟さを痛烈に実感した」、男子ハンドボール部からは「強い気持ちで決勝に挑むことができた」、弓道部からは「選抜大会に続き三位という結果だったので、その悔しさを糧に高総体では必ず優勝します」との反省や決意を聞かせてもらった。また、剣道部からは「自分に厳しく練習をして高総体優勝して絶対インターハイ行くぞ!」と頼もしい言葉を聞いた。この結果を踏まえ、各部では気持ちを切り替えて練習に励んでいくようだ。

編集後記

平成二十七年度も残り僅かとなりました。皆さんにとってこの一年はどのようなものだったでしょうか。

花北新聞「黒橋」は勉強部活動、行事など多くの面で輝く花高生の姿をお届けしています。今回は最大イベントの一つである桜雲祭、文化部の活躍、そして修学旅行を中心に取り上げました。楽しかった時間、その瞬間を思い出さず、かけとして読んでいただければ幸いです。前期、後期と二回に分けて作成してきましたが、花高生の素晴らしい姿を伝える新聞になったと思います。新聞委員一人ひとりが責任を持って仕事を果たした結果だと思えます。次回の発行予定は新年度になります。また花高生のキラリと輝く姿を掲載していきます。お楽しみに!

委員長 2C 照井万由花